

相模原市図書館事業評価書【概要版】

1 図書館事業評価の目的

図書館法では、図書館の運営の状況について評価を行い、運営の改善を図るための必要な措置を講ずることと、運営の状況に関する情報を積極的に提供し、地域住民や関係者の理解を深めて連携及び協力の推進に資することについて、努力義務規定が設けられている。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」では、図書館の基本的な運営方針に基づいた運営の確保と、その事業水準の向上を図るため、運営状況の点検及び評価を行うよう努めることとされている。

このことから、相模原市の図書館においても図書館事業評価を行い運営改善等に生かすため、図書館協議会にも意見をいただきながら評価内容及び実施方法等の検討を進め、平成 26 年度から図書館事業評価を実施している。

2 図書館事業評価の概要及び評価手法

(1) 事業評価の概要

ア 評価期間

平成 29 年度から令和元年度まで（新・相模原市総合計画の後期実施計画期間）

イ 評価の構成

- ・ 本市図書館全体の利用者へのサービスに係る「全体評価」
- ・ 市立図書館及び相武台分館、相模大野図書館、橋本図書館の各事業に係る「各館評価」

(2) 事業評価の手法

- ・ 外部評価：第三者の立場から客観的視点で実施（図書館協議会委員）
- ・ 内部評価：図書館職員の自己評価
- ・ アンケート調査：図書館利用者の満足度やニーズ把握等

(3) 全体評価

評価指標と目標値を設定し、目標値に対する達成状況を定量的に検証

評価指標	項目	目標値（対前年度増減率）
蔵書に関する指標	市民 1 人当たりの蔵書数	0.2%増加
	参考図書 of 蔵書数	1.5%増加
	郷土資料の蔵書数	3.0%増加
利用に関する指標	市民 1 人当たりの貸出冊数	2.0%以内の減少
	子どもの貸出冊数	5.0%以内の減少

評価指標	項目	目標値（対前年度増減率）
来館に関する指標	入館者数	1.0%増加
	おはなし会参加者数	1.0%増加
	レファレンスの受付件数	1.5%以内の減少

(4) 各館評価

各図書館で実施した事業を定性的に検証

ア 評価対象

各図書館で実施した年度ごとの主な事業を評価対象とし、事業への取組や成果等について検証するとともに、評価や課題点等を抽出

イ 図書館利用者アンケート

来館者へのアンケート及び各事業実施時のアンケートによる利用者意見から評価や課題点等を抽出（令和元年度は、コロナ禍での臨時休館により未実施）

3 相模原市図書館事業評価の総括

(1) 図書館協議会委員の主な外部評価

評価項目	評価された点	課題とされた点	今後の取組
蔵書	・蔵書更新を行いながら、市民1人当たりの蔵書冊数を維持	・新たな資料が少なく、利用者の多様なニーズへの対応が不十分 ・全国的な平均値と比較し、市民1人当たりの蔵書数が不十分	・継続的な蔵書の質の向上 ・デジタル媒体等も含めた多様な資料や情報の提供と、それらへアクセスするための環境整備
利用	・関係機関とも連携しながら、資料展示やイベントなど図書館利用を促進する様々な取組を数多く実施	・蔵書の更なる充実やサービスの利便性向上に加え、図書館の様々な取組が資料の利用につながる循環が必要	・図書館が扱う資料分野の多様性を生かし、読書推進に加え、読書に留まらない取組を実施
来館	・おはなし会やレファレンスは、図書館の専門的なサービスとして一定の役割を遂行	・中長期的な計画に基づく総合的な取組の推進 ・社会の変化の中での図書館の魅力や価値の捉え直しと発信による利用者の拡充	・『第2次図書館基本計画』及び『第3次子ども読書活動基本計画』に基づく各施策の推進
評価手法		・利用状況や施策の効果の詳細な分析 ・定量的な検証や評価では把握できない満足度等の調査	・評価手法の課題を踏まえて評価を実施し、サービスの改善に活用

(2) 全体評価の総括

ア 蔵書に関する指標

網掛けは目標を達成した項目

評価項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年比 目標値
	実績値	実績値	実績値	
市民 1 人当たりの 蔵書数 (冊)	2.01 +0.4%	2.01 -0.02%	2.01 -0.03%	+0.2%
参考図書の 蔵書数 (冊)	61,731 +1.6%	62,000 +0.4%	62,986 +1.6%	+1.5%
郷土資料の 蔵書数 (冊)	83,278 +2.2%	83,324 +0.1%	84,424 +1.3%	+3.0%

市民 1 人当たりの蔵書数：平成 29 年度までは増加傾向にあり、それ以降横ばい

参考図書の蔵書数：増加傾向で推移し、平成 29 年度及び令和元年度は目標を達成

郷土資料の蔵書数：増加傾向で推移したが、目標は不達成

適切な蔵書更新とより効果的な蔵書構築を行い、引き続き蔵書の質の充実を図る必要がある。

イ 利用に関する指標

網掛けは目標を達成した項目

評価項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年比 目標値
	実績値	実績値	実績値	
市民 1 人当たりの 貸出冊数 (冊)	3.76 -2.3%	3.64 -3.2%	3.21 -11.8%	-2.0%
子どもの 貸出冊数 (冊)	491,292 -2.1%	453,588 -7.7%	405,501 -10.6%	-5.0%

市民 1 人当たりの貸出冊数：中長期的に減少傾向にあり、いずれの年度も目標以上の減少

子どもの貸出冊数：中長期的に減少傾向にあり、平成 30 年度以降は目標以上の減少

令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館の影響で、いずれの評価項目も大きく減少している。

貸出・返却等の基本的サービスの利便性向上に努めるとともに、読書推進だけでなく、社会状況の変化に応じた取組を行うことで、資料の利活用につなげる必要がある。

ウ 来館に関する指標

網掛けは目標を達成した項目

評価項目	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値	令和元年度 実績値	前年比 目標値
入館者数（人）	1,947,843 -3.9%	1,870,491 -4.0%	1,628,561 -12.9%	+1.0%
おはなし会 参加者数（人）	9,526 +6.7%	9,060 -4.9%	7,197 -20.6%	+1.0%
レファレンスの 受付件数（件）	35,703 -3.1%	35,870 +0.5%	31,430 -12.4%	-1.5%

入館者数：中長期的に減少傾向にあり、いずれの年度も目標以上の減少

おはなし会参加者数：中長期的に緩やかに増加し、平成 29 年度は目標を達成

レファレンスの受付件数：中長期的に緩やかに増加し、平成 30 年度は目標を達成

令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館の影響で、いずれの評価項目も大きく減少している。

おはなし会やレファレンスの更なる周知とともに、入館者の減少に対し、中長期的な計画に基づく継続的な取組や、図書館の魅力や価値の捉え直しと発信により、利用者の拡充を図る必要がある。

(3) 各館評価の総括

各館における課題や利用者ニーズに即した蔵書構築を行い、継続的な資料の展示によって利用を促進するとともに、関係機関とも積極的に連携を図り、資料の利用につながるような事業を幅広い年代に向けて実施した。

また、事業の実施だけではなく、図書館の事業を周知する取組の拡充や、施設の整備など、利用環境の充実という側面からも利用促進を図った。市立図書館においては、本市図書館全体を捉えた取組として、図書館システムの更新や、新たな計画の策定を推進した。

全体評価と同様に、来館者数や貸出冊数は館別に見ても中長期的には減少傾向にある一方で、一部のコレクションの利用が増加するなど、部分的には図書館の取組により利用の活性化が図られたケースも見られた。今後も、事業を計画的に推進して図書館利用促進につながる事が課題である。

各図書館で実施した特色ある事業（各館評価に掲載した事業から、一部を抜粋）

	事業名	内容	内部評価
市立図書館	イベント「えんぱーく」への出展 (令和元年度)	中央区内の街区公園でのイベントに100冊程度の本を持って出張し、公園での活動や遊びの合間に読書やおはなし会の機会を提供	イベント参加者は多く、図書館のブースを訪れた方や、おはなし会参加者からは概ね好意的な意見をいただいた。図書館内で利用を待つだけではなく、図書館の外へ資料を届け、利用の裾野を広げる取組として、今後も機会を捉え実施を検討したい。
相模大野図書館	・英語多読コーナーの設置（平成30年度） ・英語多読コーナーの充実（令和元年度）	・多読資料を新規購入し多読コーナーを設置 ・英語多読資料の購入	・多読コーナーの設置は反響が大きく、洋書の貸出が増えた。関連したイベントの参加も多く関心の高さが伺えた。 ・英語多読コーナーは関心が高く、資料の充実を求める声が多く、特に付録CD付きの資料の収集が課題となっている。
橋本図書館	橋本まちゼミ応援展示 (平成29年度～令和元年度)	橋本商店街協同組合と連携し、個々のゼミや実施する業種に関連したブックリストの作成	各店舗が講師となって橋本商店街を盛り上げる「橋本まちゼミ」の期間中、ブックリストを配布したほか、館内で関連本の展示も行った。今後も図書館という枠にとらわれず、地域の図書館として認識、活用していただけるよう、関係各所との連携を検討したい。